

HPVワクチン Q&A

Q. ワクチン接種後に様々な症状を訴えた人がいたので心配です。

A. 日本や世界中で様々な調査研究が行われていますが、「ワクチン接種との因果関係がある」という証明はされていないので、安心して接種してください。

また、このような症状は、ワクチン未接種の人にも一定程度みられることがわかってきています。名古屋市での大規模な調査でも、接種した女子と接種しなかった女子で有意な差がありませんでした。

HPV ワクチンの安全性名古屋スタディ

1994 年度～ 2000 年度生まれ女性約 3 万人のデータ
24 項目の症状に関して

ワクチン接種者と非接種者として比較 → 有意差なし

1 月経不順	7 集中できない	13 なかなか眠れない	19 簡単な漢字が思い出せない
2 月経量の異常	8 視野の異常	14 異常に長く寝てしまう	20 身体が自分の意志に反して動く
3 関節や体が痛む	9 光を眩しく感じる	15 皮膚が荒れてきた	21 普通に歩けなくなった
4 ひどい頭痛	10 視力が急に低下	16 過呼吸	22 杖や車椅子が必要になった
5 身体がだるい	11 めまいがする	17 物覚えが悪くなった	23 突然力が抜ける
6 すく疲れる	12 足が冷たい	18 簡単な計算が出来なくなった	24 手や足に力が入らない

Suzuki S, et al.: Papillomavirus Res 2018; 5: 96-103より引用改変

Q. 接種後 30 分安静にするのは どうして？

A. 接種直後に、痛みや緊張などで失神や立ちくらみなどが起こることがあります。そのため接種後30分ほどは、座って様子をみてください。

Q. ワクチン接種後にどのような症状が出たら受診すべきなの？

A. HPVワクチンに限らず、針を刺したことや、不安によるストレスが原因で症状が出る場合があります。接種したところ以外の身体の痛み、倦怠感、手足のしびれ、ふるえなど、気になる症状や体の変化がある場合は、接種した医療機関を受診してください。状況に応じて専門機関や協力医療機関と連携して対応します。

発行 2022年8月
神奈川県産科婦人科医会

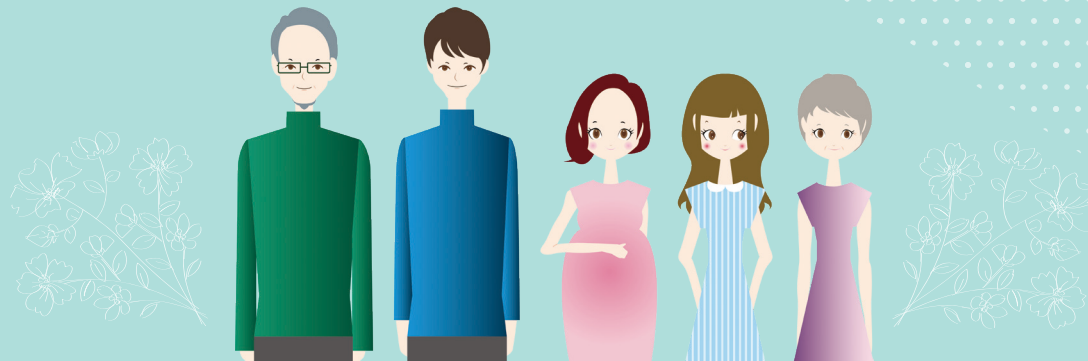
監修 宮城悦子(横浜市立大学医学部産婦人科学教室)
小野瀬亮(神奈川県立がんセンター婦人科)

HPVは子宮頸がんの他にも多くの男女のがんの原因となるウイルスです。YOKOHAMA HPV PROJECTではHPV関連疾患の予防に関する最新情報を発信しています。



Copyright © 2017 E. Miyagi, YCU All Rights Reserved.

HPV*ワクチンと検診で(※ヒトパピローマウイルス) 子宮頸がんを予防しましょう！



Copyright © 2017 E. Miyagi, YCU All Rights Reserved.

私たち産婦人科医師は
HPV ワクチン接種をおすすめします！

定期接種について*

小学校 6 年生から
高校 1 年生相当の
女子は無料で
接種できます。

キャッチアップ接種について*

1997 ～ 2005 年度生まれの女性
→2025 年 3 月末まで無料で接種

2006 ・ 2007 年度生まれの女性
→通常の定期接種対象の年齢を超えても
2025 年 3 月末まで無料で接種

※無料で接種できるのは、
2価または4価 HPV ワクチンの 2 種類です。

2価HPVワクチン
HPV16・18型の感染を予防

4価HPVワクチン
HPV16・18型の感染を予防、かつ、
HPV6・11型(尖圭コンジローマの原因)の感染を予防



ヒトパピローマウイルス感染症
～子宮頸がん(子宮けいがん)と
HPVワクチン～

子宮頸がんとHPV
ワクチンについての
詳しい情報は、厚生労働省のホームページ
でご確認ください。

私たち産婦人科医師は、検診だけでなくワクチンとの併用でこの様な子宮頸がんの患者さんを一人でも減らしたいと思っています。

HPVは主に性的接触によって感染するため、初めての性交前にワクチンを接種することが、子宮頸がん予防に最も効果があります。

がん検診で子宮頸がんが見つかった時、Aさんは32歳。1歳と3歳の女の子のママでした。妊娠中に受けたがん検診は異常がなかったことでショックでした。すでに手術ができない状態で、抗がん剤や放射線治療のため入退院を繰り返しました。一時は回復したものの、転移が見つかり2年後に娘たちを残して他界されました。

子育て世代の女性を襲う子宮頸がんはマザーキラーと呼ばれています。

24歳のBさんは、待望の第一子を妊娠。喜びもつかの間、妊娠初期の検診で子宮頸がんが見つかりました。Bさんの命を救うためには、できるだけ早い手術が必要でした。子宮は16週の胎児とともに摘出されました。

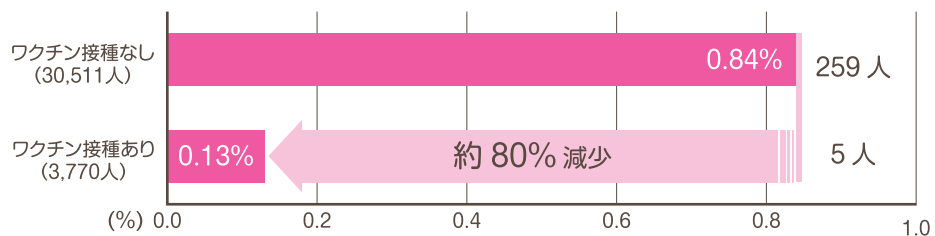
30代までにがんの治療で子宮を失ってしまう女性が日本では年間1,000人います。

Cさんは28歳の時に高度前がん病変と診断されました。定期的な通院検査中、30歳で初期のがんに進展し、円錐切除術(子宮の入り口の一部を切除)を受けました。32歳で妊娠。早産徴候がみられたため約2か月間入院し、予定より2か月早い32週での出産となりました。

円錐切除術を受ける人は、日本では年間1万4千人。子宮は残せますが、術後に妊娠した方の8~15%程度が早産となると言われています。

HPVワクチンで高度前がん病変が減少

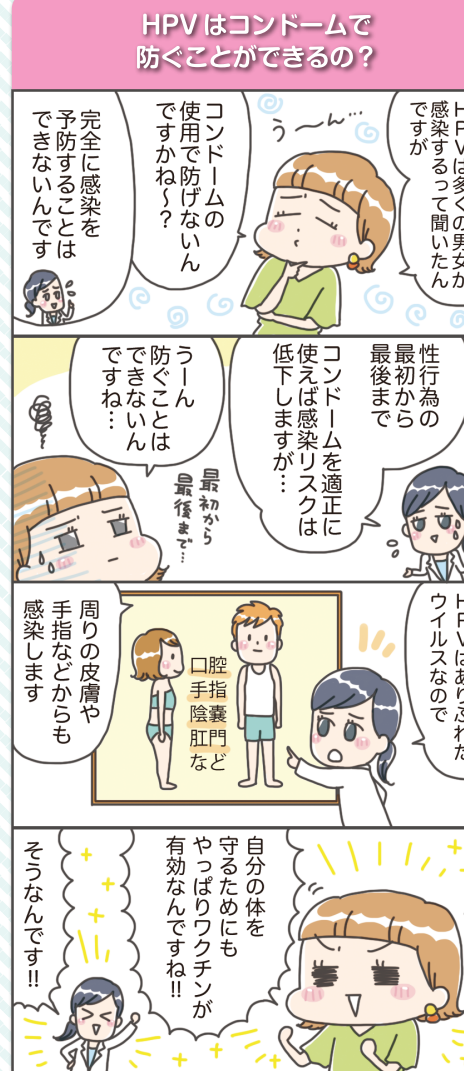
日本における、2価または4価ワクチンの効果



HPVワクチン接種を1回以上受けた20~29歳の日本人女性において、子宮頸部高度前がん病変の発生リスクは約80%減少

Shiko Y. et al. BMC infect Dis. 2020; 20: 808より改変作成

日本でもHPVワクチン(2価または4価)で高度前がん病変が減少しました。



※17~30歳で接種することで、将来子宮頸がんになるリスクを約半分に減らせるという海外からの報告があります。

漫画:アベナオミ

HPVワクチンの効果はどのくらい続くの?

2006年に世界で接種が始まり、少なくとも14年、予防に必要な抗体価が維持されることがわかっています。理論的には20~30年以上有効と推計されています。